

がん専門医に聞く

富山労災病院 院長 **みわ こういち**
三輪 晃一

— 「がん」で死にたもうなかれ —



「がん」は、われわれに気づかれないように忍び寄ります。大きくなって、目に見えるほどになっても気配を感じさせず、ヒトはがんに侵されているとは気づきません。長い時期があって、症状が現れた時にはかなり進行しており、ここに至れば昨今の進歩した治療法を駆使しても救命しえないことも多いのです。これが、がんが恐れられる所以です。

がんの特効薬の開発に、世界の多くの研究者が、日夜を問わずいろいろな角度でアプローチを試みています。新規の抗がん剤、がん細胞の遺伝子異常をターゲットにした分子標的治療剤、ホルモン療法剤などが最近続々と登場し、その有効性は目を見張るものがありますが、

残念ながら、小さくなったがんはまた大きくなり、最後は死に追いやられる経過が多いのです。

その原因は、がん細胞と正常細胞の本質的な違いが未だ解明されていないところにあります。がん細胞は、細菌のように体外から生体に侵入するのではなく、がん細胞を宿すヒトの細胞から発生してきます。つまり、生体を脅かすがん細胞も、わが身の一部で、正常細胞と共有する部分がほとんどで、その違いがどこにあるかを明確に指摘することができないのです。また、がんを構成するがん細胞それぞれが不均質であることも難攻不落の要因です。あるがん細胞に見られる異常が、隣接するがん細胞では存在しない「不均一性」が複数に認められるのががんです。ある薬物でがんの大部分を死滅させ治ったかにみえても、やがてこの薬物が無効であったがん細胞が増殖しはじめ、しこりを作り、再発となるメカニズムは「不均一性」に起因すると考えられるのです。

さて、現実に戻って、われわれががんで死なないためには、一番大切なのはなにかを考えてみましょう。がんは早く見つけて完全に切除できれば、ほぼ100%治ることはよく知られております。この大きさは、各臓器ともに2cmまでです。この大きさでは、転移はなく、標準をはるかに縮小した手術ができます。例えば胃癌では通常は胃の2/3以上が切除されますが、縮小手術では内視鏡手術や胃1/3以下切除でできます。また乳癌では乳房全切除が標準ですが、逆に乳房をほとんど残す手術も可能になります。つまり、早くがんを発見できれば、手術後の後遺症が少なく、術後の生活の質も良い治療法ともなるわけです。



検診の意義は大変重要です。皆様には、がんで命を落としてほしくありません。

魚津市はがん検診の助成を行っており、胃・乳腺・大腸・子宮・肺、それぞれおおよそ600～3,000円以内で受診できます。1年に1度の検診を忘れないでください。

ご質問やご相談は地域医療連携室まで、また富山労災病院ホームページもご覧ください。

発行：独立行政法人労働者健康福祉機構
富山労災病院 地域医療連携室
〒937-0042 魚津市六郎丸992

Tel: 0765-22-1354

Fax: 0120-935-631 (フリーダイヤル)

富山労災病院 救急外来からのお知らせ

富山労災病院では終日救急患者の診療を行っております。また、平日の午後5時以降および休日は救急外来を開設しており、病状により専門医師が診療いたします。

受診される場合22-1280までお電話下さい。